

アーティスト・サポート事業 enoco [study?] #1 入選アーティスト決定

enoco では、若手アーティストと協働しながら「アートの可能性」や「社会や他者に対してひらいていくこと」について [study?] する「アーティスト・サポート事業 enoco [study?] 」を開始します。

第一回目となる今年度は、2013 年 4 月 5 日（金）～5 月 19 日の間に募集を行い、計 19 件のご応募をいただきました。3 名の審査員による厳正な審査の結果、友枝望さんを入選アーティストとして決定いたしました。

ご応募いただいたアーティストの皆様はこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

入選アーティストである友枝望さんには 2013 年 7～9 月の 3 ヶ月間、enoco を拠点とした制作活動を行っていただきます（制作期間中、1 回以上のワークショップとオープンアトリエを実施します）。また 10 月には展覧会も開催いたします。友枝さんにとって、関西での展覧会は初の機会となります。

日程などの詳細・プロジェクトの進捗は、ホームページに随時掲載していきます。今後の展開にご期待ください。

▼入選アーティスト：友枝望（ともえだ・のぞみ）

▼プラン内容：

「借りて、飾る、インスタレーション」友枝 望

【企画内容について】

私は他者との対話をはかり生み出される作品や、「もの」と「もの」を比べる相対関係で打ち出される作品、日頃の生活で見落としがちな状況をひろいあげる行為を行っています。それは素材の持つ、物質性、身体性、概念性、機能性、場所性をとらえる思考を感覚的に鍛えあげていく行為ともいえます。

記憶や思い出の詰まった置物。それらはお土産物、魔除けの民芸品、なぜあるかわからない花瓶、高価なお酒の瓶、帆船模型、シロクマの剥製など、部屋を彩る機能をもつ大から小の多彩な立体があると思います。それらの品々を周辺の多くの家庭などから借りて展示空間に配置し、インスタレーションを構築していきます。

物語を生む構成や、対峙させ見比べる構成、文脈を探る博物館的構成など、この「見せ方」は様々です。普段の生活では気づかないことですが、この品々の所有者は知らず知らずのうちに、芸術的作業を日常的に行っているのです。

この展示により、日常と芸術空間を直接的に接続し、機能と装飾、その役割を再認識し、生活をより豊かにするきっかけとなればと思います。

【制作・展示プロセス】

制作環境の整備



周辺地域等でのリサーチ・拝借依頼



拝借



考察・アーカイブ（随時）※途中、ワークショップ・中間レビューを実施



展示

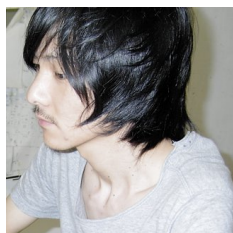


▼入選アーティストプロフィール

友枝 望

www.nozomitomoeda.net

| 略歴 |



1977 年 大阪生まれ

2001 年 広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科 卒業

2002 年 ハノーファー専科大学美術科に 6 ヶ月間交換留学

2003 年 広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程 修了

2005 年 広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程 単位修得退学

2009-2010 年 ハンブルグ美術大学彫刻科、及び時間ベースメディア科在籍

｜ 主な個展・グループ展 ｜

2013 年 " More Less " WCW Gallery ハンブルグ、ドイツ

2011 年 " salt sea sugar ship " ae GALERIE ポツダム、ドイツ

2011 年 " 個展 Entschuldigen Sie, dass ich Sie während Arbeit störe", Bürogemeinschaft Senefelderstraße, ベルリン、ドイツ

2010 年 " 広島アートプロジェクト 2010 " 広島市中区吉島地区、広島市立大学資料館広島

2010 年 " DOCKVILLE KUNST 2010: RECREATION " Reiherstieg Hauptdeich, Ecke Alte Schleuse, ハンブルグ、ドイツ

2010 年 " We are the islands "Kunstraum Kreuzberg/Betanien, ベルリン、ドイツ

2010 年 " almost the same, but not quite / 48 Stunden Neukölln " Rixdorfs, ベルリン、ドイツ

2009 年 " STRANGE LOOP ", GALERIE GENSCHER, ハンブルグ、ドイツ

2009 年 " 広島アートプロジェクト 2009 いざ！船内探険 「吉宝丸」展 " 広島市中区吉島地区、広島

2009 年 " Jahresausstellung 2009 " Hochschule für bildende Künste Hamburg、ハンブルグ、ドイツ

2008 年 " 広島アートプロジェクト 2008 サテライト企画 Camp Berlin アーカイブ ",広島市立大学芸術資料館、広島

2008 年 "キュレーション 広島アートプロジェクト 2008 旧中芸術館開館記念特別展
イルハ・グランデ-愛-" 旧中芸術館旧中ギャラリー、広島

2008 年 " Camp Berlin" B.V.G halle、ベルリン

2007 年 "旧中工場アートプロジェクト 超高品質なホコリ展 " 広島市中工場プラットホーム、広島

2005 年 " GIFT OF HIROSHIMA " Hochschule Bildende Kunst Braunschweig, ブランシュバイク、ドイツ

2004 年 " 個展 visits of invisible", 広島市立大学芸術学部棟現代表現工房、広島

2003 年 " 白市 DNA " 東広島市白市地区、東広島

2003 年 " HOPES 2003 " ふくやま美術館、福山

2002 年 " ハノーバー - 広島 / 都市の中の動き " 袋町市民交流プラザ、広島

2002 年 " Dasein " Kunstraum Zehn ハノーバー、ドイツ

2002 年 " 個展 X-ray / 友枝 望 " 大和ラヂエーター viewing room、広島

｜ 過去作品 ｜



Migration of Folk Craft (2008)

民芸品、ドローイング、桐の箱

サイズ可変、インスタレーション

写真：鹿田義彦



To do List (2011)

事務所で借りた文房具

サイズ可変、インスタレーション

写真：平野 薫

▼審査方法について

「プランのオリジナリティ」「制作プロセスの計画性」「今後の発展性」等 7 項目の審査基準に基づき、80 点満点の得点制で審査を実施しました。

各作品に関するディスカッションを行った後、各自審査基準に基づき点数にて評価を行い、その合算で得点数の多かった応募者上位 5 名（組）に絞りました。

その後、上位 5 名（組）のプラン等について、本事業で取り組む意義があるか/本事業趣旨に合致しているかを議論し、入選者 1 名を決定しました。

▼審査員コメント

小森福見（デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）企画部門マネージャー、パブリシティリーダー兼務）

江之子島というアーティスト自身ほとんど馴染みのない土地で、物を借りるという行為により他者との交流を生みだし、地域性や場所性を生かして収集し考察の上、文脈化して作品に昇華するリサーチに重きを置いたプランは、アートと社会の関係性を考える今回のプログラムの主旨に合致していると言えます。

身の回りに溢れる「もの」を、偶然性やそのもの同士の関係性、場所性、そこから紡ぎだされる対話から作品として可視化するという独自の軽快な視点は、鑑賞者の感覚や認識を新たに拡張させるものになるのではないのでしょうか。

これから制作過程で関わる地域の人々が、どのようにコンセプチュアルなインスタレーション

に介入するのか、もしくはされるのか、アートの持つ可能性を[study?] する最初の実験となることを期待します。

他の応募作品にも非常に完成度の高いプランがあり、制作や発表の機会創出の必要性を感じました。

平田剛志（京都国立近代美術館研究補佐員、つくるビルアドバイザー）

enoco[study]は、「社会・他者に対してひらいていくこと」が特徴の公募でした。プランには計画性、実現性と同時に、社会や他者の存在を想定し、偶然や変化に対して柔軟に対処する点が必要とされます。今回の応募プランでは、実現性のあるプランが多く見られましたが、「ひらく」ことで発生する予測しえない「可能性」を含んだプランは少なかったように思います。

今回、公募に選出された友枝望さんのプランは、その意味で「ひらかれた作品」でした。そのプランは、リレーショナル・アートや参加型アートを踏まえたものでしたが、そこには美術館の基本業務である収集、アーカイブ、展示のプロセスも内在されており、今日の美術館やコレクション、地域をめぐる社会的な視点も垣間見えたからです。

収集も展示も「つくる」ものであり、社会や他者の存在が不可欠です。今回の enoco[study]によって、友枝さんがアートの可能性を「ひらいていくこと」を期待しています。

高坂玲子（江之子島文化芸術創造センター企画部門アートディレクター）

第一回目となるアーティスト・サポート事業 enoco[study?]. 今回は、外部からの審査員として、神戸・京都という関西の他都市で活動する小森さん、平田さんをお招きしました。約6時間に渡る審査は審査員にとっても[study]の連続でした。enoco という施設に対する第三者（小森さん・平田さん）の視点を介在させながら、本事業の意義について、また「社会や他者に対してひらいていくこと」について、それぞれの考えを共有していくという貴重な機会となりました。

入選者である友枝望さんのプランは、地域の人々の日常生活の中に散在しているモノを収集し、文脈や物語を見いだして再構成するというシンプルなプランではありますが、他者のモノを「借りる」という行為を通して、他者との関わりをひらいていくという予測不可能な部分を残している点で興味深いものでした。

「借りる」という行為を行う際に起こる様々な交渉と対話、文脈や物語の形成を考察する際の様々な[study]は、一筋縄ではいかないことも多々あるでしょう。他者の日常に寄り添いながらも、それらを俯瞰し、生活の中にひそむ創造性を体型化させアーカイブしていく実験。私たち enoco もこの実験を通して、友枝さんとともに大阪という都市に住まう人々の暮らしやその中にある創造性を見いだすことができればと考えています。